人ウォッチング

縁の下の力持ちに

新しい労働団体「連合愛知」準備会発足（三月一日）を前に、事務局長的な仕事に携わっている中電労組副委員長で連合準備委員の妻木紀雄さん（四五）は、議案書作りに追われている。

組合専従十三年の経験と若さ。それに、民間労組が先に加盟することなどから、「ぜひ」と頼まれ、昨年三月、調整役を引き受けた。各労組の言い分を聞くため、縄ノレンをくぐったり、根回しにも力を注いできた。貯金でワープロを買い、週末は自宅で書類作り。連合作りに、どっぷりとつかった。

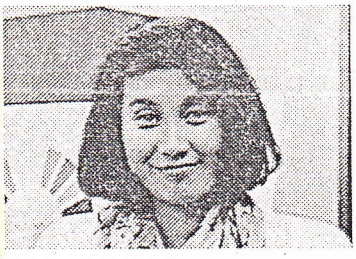
「連合は、小さな市町村が合併、大きな市をつくるようなもの。魅力ある街づくりをしなくては」。十一月の正式発足には、四十以上の単産、約四十四万人が加入するが、妻木さんはこれを機に、出身労組に戻る予定。「縁の下の力持ちに徹したい」と、県内各地を飛び回る。

色彩のプロ第一人者

「今年の春、夏は、白みがかったピンク、オレンジ、黄みどり色が流行しそう。イメージは人間性のある柔らかさですね」。こう予言するのは名古屋でカラーアナリスト第一号の曽我礼子さん（三七）。客の相談に応じ、似合う色を選ぶ「色彩のプロ」。

肌、髪、目の色と照らし合わせ、約百五十色の中からぴったりとその人の色を探し出す。オシャレに敏感な人が増えたが、まだまだ「好きな色が似合う色」と、誤解している人も多いという。

代議士秘書を三年間務めたのち、思い切って今の仕事に飛び込んだ。昨年十月、名古屋市中区栄四丁目にオープンした相談所へ派遣された。訪れる人の四割が男性。「印象アップして営業成績を伸ばしたいという積極派のビジネスマンも多い」と曽我さん。たまご色の淡いスーツに、アクセントのスカーフがぴったりと決まっていた。



反響の大きさに喜び

「私たちの呼びかけがこんな全国的な運動になるなんて驚いています」。中国・無錫市に桜林をつくる運動を進めている日本桜友誼林建設実行委員会の長谷川清巳委員長（六六）（鈴鹿市下箕田二の一七の七）は、四月の訪中準備に追われながらも、全国から約八百人が参加するという反響の大きさに、喜びでいっぱい。

長谷川さんらは三年前、日中友好文化交流訪中団員として、中国有数の景勝地である無錫市を訪れ、その雄大な景観に感動。帰国後、全国に桜林建設募金を呼びかけた。

長谷川さん自身、二十歳の時、陸軍歩兵一三三連隊に入隊し、中国を転戦。この間、多くの戦友を失い、自らも右足に銃弾を受けて、武漢の病院で終戦を迎えた。

「戦争の愚かさと平和のありがたさを、身をもって体験しました。平和のシンボルである桜が子々孫々まで咲き続

師友本

名大プラズマ研究所長
内田　岱二郎（たいじろう）さん

核融合への恩師、森一久さん

昭和23年に旧制最後の東大に入った。戦争でそれまでの権威も何もかもぶち壊された後だ。世にいう恩師というものはないんだよ。核融合の道に入るきっかけを作ってくれた人、という意味では、原子力産業会議専務理事の森一久さんがそうかな。向こうが3つ年上で、兄貴分だよ。

森さんは京大の湯川秀樹門下。学校も違うし、どこで知り合ったのか、今じゃ思い出せないけど、不思議な間柄だね。

大学を出て、4年間民間会社に勤めた。その時、森さんが「これからは核融合だ」って、さかんにそそのかすんだ。ちょうど、世界中で核融合をやろうって機運がワーッと起きてきた時。よし、やってやろうってんで乗っちゃった。給料が半分になるって女房が泣いて。思えば向こう見ずだった。

当時は25年でモノになるだろうって考えたけど、恐れ多いことだよな。そのかわり相手にとって不足はない。自分でほめてちゃ世話ないけど、いい仕事やったと思ってるよ。

将来は世界のプリマ

「友達がおしゃれしたり、楽に行ってきたと聞くとうらやましいけど、わたしは舞台で素晴らしい体験ができ、やっぱりよかった」と名古屋市守山区の小さなプリマ神原弘

初めて東京で開催された第十七回ローザンヌ国際バレエコンクールで、欧米の著名なバレエ学校に一年間、授業料免除で留学できるスカラシップ賞を受賞した。

十一歳から同市千種区のバレエスタジオに通う。「バレレッスン終了後も自習を欠かさない。「だから、食べても太らないんです」と一メートル三十六キロのスリムな体を、軽やかに躍らせた。

「入賞するなんて考えてもいなかったから、その先は……」高校受験生にとって、

あいち ライフ&カルチャー

美術館蔵＝……レビ放送【後援】愛知県・名古屋市教育委員会